

「けやき俳句の会」会報(第百八十二回)

平成三十年八月一日

第百八十二回句会記録

★日時 八月一日

★場所 けやき学習室

(参加者二十四名)

(総数七十二句)

★真樹先生投句

①大花火果て寂寥の橋深夜

閑話休題地球温暖化出水

休止符が欲し火星大接近極暑

★真樹先生選句(◎は特選)

◎④甚平のいささか気取り勇み肌 かな太

◎②夕立あと鴉広場で羽づくろい 一華

◎①兜虫無防備子らも抜き足で 紀泉

⑤休耕田遠慮は無用草茂る 要

⑤夏の霧扉開ければ幼き日 夕佳

④心太すぎる不義理の亡夫の郷 東洋

③極暑かな長寿の秘薬と休息す 隼人

③旅日記終りから書く夏の果 かな太

②休肝日なれど仲間と暑気払い 誠

②父祖の地の出水守れる人ら居て 一華

②ねこじやらし風とおしゃべり気忙しく 夕佳

②蟻の列休まず続く乱れ無く 樹音

①休みなく蟻の群がる切り株に 冬水

①土用丑香の誘惑に暖簾入る 蕉哉

①溽暑かな鴉も休む樹に潜み 遥風

★会員互選句

⑤暮れてなお身も世も火照る大暑なり

真弓

⑤不機嫌な己が嫌でサングラス 樹音

③休診の紙剥げかけて夕焼雲 清明

③山清水胡瓜を叩く瀬音かな 清明

③夏草や縄文の風火焰土器 香魚

③流木に翅を休める夏の蝶 かな太

②休み茶屋身体あずけてせみ時雨 香魚

②沖繩の夏の記憶は休みなし 香魚

②事も無げに暮れ初む路地や沙羅の花 要

②球児らの交す火花や鼓手の汗 要

②アナウンス暑し通勤客の黙 藍愛

②扉には早口言葉冷やそうめん 藍愛

②出水の死いくさの変わる敗戦忌 史烙

②農休やもやいの一つ溝浚え 夢城

②犀星の生れし街なる水涼し 冬水

②原爆忌人影石に今もなお 蕉哉

②成田山の蒲焼招く土用かな 隼人

②元気を量り応じて西瓜切る 春草

②炎昼や疲れし靴の音聞こゆ 東洋

②夏の雲不穩を孕む帰り途 遥風

②休る我を差し置く蟬しぐれ 而今

②生還の友フラ踊る夏フェスタ 真弓

【次回開催】

★日時・九月五日(水)

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「開」を含み三句